

現状と課題について

1 現状

現在、市立高等学校においては、普通科を中心に、生徒の興味関心や保護者・地域の要望等を踏まえ、専門学科として国際文化科を、特色ある普通科コースとして探究科学コース、健康福祉コースを設置しており、時代に即した教育課程の編成、充実した授業の展開、熱心な部活動の指導などを行いながら、社会に貢献できる人材を育成している。

学校規模としても、3校はいずれも1学年6学級以上あり、兵庫県が望ましい規模として示している「6～8学級」の基準を満たしている。

また、入試における志願倍率も概ね高く、中学生が学びたい学校を選択することを目的として県下で実施しているオープン・ハイスクールでも、入試の募集定員を大幅に上回る人員が参加しており、生徒や保護者から、学びたい、進学したい学校として認識されており、3校ともそれぞれ魅力ある学校づくりができていると言える。

2 課題

上記のとおり、現状では市立高等学校としてその役割を果たしてきているところであるが、次のような点から、高等学校教育の更なる充実に向けた、市立高等学校の在り方について検討する必要がある。

(1) 社会の変化

本格的な人口減少・少子高齢化時代を迎えようとしており、また、Society5.0と言われる超スマート社会の実現に向けAIやビッグデータの活用など技術革新が急速に進むなど、社会が急激に変化しつつある。

このように、求められる能力も刻々と変わり続けていくといった予測困難な時代を迎えつつある中、生徒が社会で生きていくために必要な力を身に付け、多様な可能性を伸ばすことができるよう、市立高等学校における学びについて検討を行う必要がある。

(2) 少子化の進展

姫路・福崎地域における公立中学校卒業生徒数は、令和12年には令和3年と比べて約1割減少する見込みであり、その後も減少傾向は続いていく。

生徒数が減少するという状況を踏まえた場合、学級数や学校数の削減といった方策が考えられるが、学級数が少なくなりすぎると、教職員の適正配置が困難になる、生徒会活動や部活動の充実が図りにくい等、望ましい学校運営が困難になることから、少子化を踏まえつつ、一定の規模を維持する方策について検討する必要がある。

(3) 姫路市の財政状況

本格的な人口減少社会の到来とともに、市全体の予算規模の拡大は望みにくい状況の中、人の生命に関わる社会保障の維持や社会基盤（いわゆるインフラ）の老朽化対策など、優先せざるを得ない課題を解決するための経費も大幅に増加することが見込まれる。

このような中、教育費については、未来ある子どもたちに充実した教育環境を提供するため、予算規模を維持する努力を続けているが、現状以上の予算を確保することが困難な状況にある。

市立高等学校の運営に要する経費については、令和元年度決算ベースで、授業料など約 2.8 億円の歳入があるものの、約 15 億円の費用が必要となっている。また、市立高等学校の校舎等は、建築後 40 年以上経過した施設が全体の約 81%を占めるなど老朽化が進んでおり、令和 3 年 1 月に策定した姫路市学校施設長寿命化計画の試算によれば、校舎の改修や改築等の費用として、令和 42 年度までの 40 年間に約 188 億円と多額の費用が必要になる。

62 市ある中核市において全日制の市立高等学校を 3 校開設しているのは本市と鹿児島市のみで、あとは 2 校設置が 4 市、1 校設置が 25 市である。3 校を維持し続けることが可能かどうかについて財政面からの検討も必要である。